

広島県知事の湯崎です。

補正予算シリーズ2回目は、今後の中長期的な取組についてご説明します。

これまで、県では飲食店のテイクアウトやデリバリー等への新規参入支援を行ったところですが、今後は、この「新しい日常を踏まえた経済活動の安定的発展」についての取組をより一層推進していきます。

具体的には5つあります。

まず1つ目です。例えばネットショップやオンライン相談などのデジタル技術を活用した新たなビジネスモデルを行うサービス産業の支援や、事業継続のためこれまでとは違うビジネスに参入する企業の後押しをします。

続いて2つ目です。誰もがストレスなく、安全・安心に県内の観光を楽しめるよう、ホテルの自動チェックインシステムの導入やAIカメラによる観光施設の混雑状況の見える化など、デジタル技術を活用した受入環境の整備を図っていきます。

3つ目です。「ひろしまサンドボックス推進協議会」に集まる1、200者を超える会員の更なるチャレンジを促進します。

そして、より多様な人材を集めるため、デジタル技術を活用した新しい日常に適応する製品やサービスの提案を全国から募集し、県内外のプレーヤーが新たな価値を創造できるよう、県内フィールドでの開発から実証までを支援していきます。

4つ目、5つ目は、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、暮らしを重視するライフスタイルへの関心が高まり、働き方も見直される中、地方移住への希望者や地方移転に関心を持つ企業が増えつつあることに関連した取組です。

移住については、山間部や島など県内どこでも創造的な仕事ができるように光ファイバー設置 100%を目指します。

さらに、移住ツアーなどを企画し、ウィズコロナ時代に移住先として選ばれるための環境整備を行います。

企業の移転についても、本社・研究開発機能、デジタル系企業などの誘致の強化を行います。また、製造業を中心にAI導入やロボット化などの生産性向上に取り組む企業の設備投資を支援するため、期間限定で新たな助成を行ないます。

今後も状況が刻々と変化していくことが予想されますが、機をとらえながら感染拡大防止と社会経済活動の両立に全力で取り組んでまいります。